

闘争態勢を確立

緊就連絡会で総決起大会

緊就首切りの反対闘争を要機に、これまでバラバラだった緊就各組合(大牟田緊就組合、全日自緊就分會、中立組合、三池労働組合)が、統一を期して、緊就連絡協議会(港務)を結成したが、第二回総決起大会が六月三日午前九時から労働会館でひらかれた。

この日、大会に参加したのは二一三名が欠席しただけで約三〇〇名が殆んど出席した。政府、独占資本は失業対策事業の打ち切りを企み、自労働者の攻撃をかわけてきて、その狙いは経済政策の破たんによって失対以下に低賃金労働者が増加し、失対をそのまま放置しておけば、低賃金を土台とする支配体制に好ましくない存在になってきた。

この闘争の自由化をひかえ、合理化を急進に推進するのには、いかにしてこの力を活用するかが、緊就連絡協議会に求められている。

また、賃金の二本建て(五五五五と五三〇〇)は明らかで、労働者の分配配の現われであり、緊就打切りの考え、一般失業保険の切替えととも、あくまでも反対して闘うことが決定された。そのための闘争態勢確立として(1)情宣の徹底(2)斗争資金の確立(3)大地坪の中共闘争(4)設置(5)地元交渉と対面交渉の強化、が決定された。

そして、この企業労働者と失業者の強い結合がない限り、本質的な解決はないことが強く訴えられた。

なお、大会では、この宣言を發表した。

大会宣言(要旨)

緊就に打ちかかっているわれわれも、この闘争をいかに闘うべきか、戦後緊就労働者は、いかに闘争を重んじて、次々に職場から追われ、失業の苦しみを手なづかせるに、この宣言を自由化をひかえ、合理化を急進に推進するのには、いかにしてこの力を活用するかが、緊就連絡協議会に求められている。

また、賃金の二本建て(五五五五と五三〇〇)は明らかで、労働者の分配配の現われであり、緊就打切りの考え、一般失業保険の切替えととも、あくまでも反対して闘うことが決定された。そのための闘争態勢確立として(1)情宣の徹底(2)斗争資金の確立(3)大地坪の中共闘争(4)設置(5)地元交渉と対面交渉の強化、が決定された。

そして、この企業労働者と失業者の強い結合がない限り、本質的な解決はないことが強く訴えられた。

なお、大会では、この宣言を發表した。



統一し立上った緊就の仲間たち

人の嫌がる事を

製綿所開業の高木さん

上宮町二丁目綿打業を営んでいる高木義人さんを訪ねると、高木さんはこう語った。

「昨年六月上宮町の自宅を開業して、最初は自信と誇りを持って、一心に組合員と闘って来た。最近の情宣と情宣の指導のマンツマン、妻も松尾指のマンツマン、数ヶ月技術指導を通じ、一応技術を身につけて来た。」

高木さんは、この仕事を始めて二年、高木さんはもうすっかり仕事に自信をつけている。自宅の横に工場が建てられているが、この仕事に入る動機は、この前と違って、いかにしてこの仕事を主体として、この世界に飛び込んで来たか、という点にあり、それだけに真剣である。

機械は最新式だし、真剣に仕事に取り組む高木さんの製品は、社名では非常に評判がよい。奥さんは「これも皆さんのおかげです」といって、たいへん感謝している。

自営業の仲間達

出なかつた有難

組合員、主婦の皆さんのご支援、ご心遣いを切望して、この出なかつた有難い。

この仕事を始めて二年、高木さんはもうすっかり仕事に自信をつけている。自宅の横に工場が建てられているが、この仕事に入る動機は、この前と違って、いかにしてこの仕事を主体として、この世界に飛び込んで来たか、という点にあり、それだけに真剣である。

機械は最新式だし、真剣に仕事に取り組む高木さんの製品は、社名では非常に評判がよい。奥さんは「これも皆さんのおかげです」といって、たいへん感謝している。



高木さん、高木製綿所

アンケート集約

馬渡分会主婦会で

右宣言する。一九六二年六月三日 緊就連絡協議会 総決起大会

育と社会問題「行事の反省」「意見・要望」など、また主婦会では「主婦の家庭労働」「重点労働」「主婦会行事」などの項目がとりあげられている。

集約された資料にもとづいて、いま分会で検討が加えられているが、アンケート集約の二、三をみてみる。

まず「平和斗争」では、炭労働候補に投票する一〇八(八六パーセント)、しない二、わからぬ三、回答なし七、完全白紙六。

「子供の教育」については、妻に任せている二、夫婦で十分一九、十分でないが、わづらひる四七、反抗期で手がつけられぬ二、子供が小さい二、その他四、無回答二六、白紙六。

「学力テスト」では、テスト反対四九、賛成五、検討要する三〇、わからぬ六、その他二、無回答二五などが集約されている。

組合、地域分會、主婦会への意見、要望が、このようにあげられている。

尊い皆さんの努力

すでに大刷りで各支部に掲示したように、大阪府阿部野区の一主婦から激励の手紙と心こもった温かいカンパが、おくりつけてきています。重複しますが掲載しました。

☆ ☆ ☆

新聞で「朝日の読者欄」(差別の問題、読みましてほんとうにお気の毒に存じました。正直者が損をする世の中で、がんばっていらっしゃる皆さんの努力は、ほんとうに偉いと思います。平林たい子さんも、偉く、なる長いものには巻かれて、真実を見失っておられないで。

子供に聞かれても恥かしくないようなことをして下さ。時節柄お体をお大切に。一層のご奮闘を祈ります。阿部野区 一主婦

なほ、各支部社宅関係、外資系入が、あつたら内職にぜひお願いしたいと要望していた電話番号は八八〇七、どんな遠方でも電話があれば、バイクでかけている組合員、主婦の皆さんの利用を強くお願いします。高木さんの住所は上宮町二丁目五十二番地、高木製綿所、気兼ねない旅行を終った。

労働者の生命は消耗品か

本所 古賀隆次



「一五、〇〇〇トンという会社、一貫して行ってきた組夫労働者に課せられた出炭の至上命令は、会社を一切を無視して出炭確保に駆りたてて、その反面、差別を中心とした会社の攻撃は、生産を阻害する大きな原因になっている。」

このような会社自身の矛盾は、一体どこにその影響をもたらし、今日までです。十三名も人間の生命が地の底で奪われているのをみると、然とする。つまり、会社は、命を無視した無理な「強行出炭」となっている。

「わがヤマ組第一組合」は、一貫して「会社を無視して」会社を無視して、会社と身心一体となつて、命を懸けて闘っている。

「中小企業の一人一人」に「死んでも……」と放言する。……というムードが巧みにつくりだされている。……をみれば、わたしたちは、このために、天皇のために、命を懸けて闘っている。……

危険な思想は、大人にも子供たちにも内からも、外からも、一瞬の果敢にたたきこまれて、……

池田首相は「中小企業の一人一人」に「死んでも……」と放言する。……というムードが巧みにつくりだされている。……をみれば、わたしたちは、このために、天皇のために、命を懸けて闘っている。……

「犠牲的精神」は誰が犠牲にするのか、いまも昔もかわりはない。こうして死に追いつかれてゆくのは、労働者であり、農民である。

戦前、戦後を通じて、労働者、農民を殺すのに比例して利潤を吸いあげてきたのは、資本家である。なかでも三井、資本はよくいひひひ。戦前の囚人労働、戦時中における捕り労働、あるいはその中で